

## 当社初！先端技術を結集させたICTモデル現場を設置

～オペレーション革新による生産性向上への挑戦～

東急建設株式会社（本社：東京都渋谷区、社長：寺田光宏）は、建設現場の働き方改革と生産性向上、安全・品質の確保の同時実現を目指し、千葉県内の建築現場「（仮称）船橋市立塚田第二小学校・放課後ルーム新築工事」をICTモデル現場として、様々なICT/IoT技術を駆使した施工管理を実践し、その成果を実証しております。

今回のモデル現場では、これまで個別に導入・検証をしてきた各種ICT/IoTの先端技術を総合的に採用することで、個々の機能による効果発揮に留まらず、それらの連携により飛躍的な成果につなげることを目指しています。また、当現場の検証だけでなく、いつでも社員が見学でき、他の案件にも活かせる環境を提供するショーケースの役割も担っていきます。

■ ICTモデル現場 イメージ図

## ■その他の当現場採用ICT/IoT技術

### 図面管理ツール

現場事務所サーバーとタブレット端末を連動させることで、元請社員・作業員が現場内で最新図面をデータのまま閲覧でき、チェック項目等の迅速な確認が可能です。従来は紙ベースの図面を現場へ持ち込みチェック等を行っていたため、図面内容が更新されるごとに印刷が必要でしたが、本ツールにより、大量の図面の印刷・持ち運びが不要となり、スマートな現場管理が可能となりました。

### 写真管理ツール

従来、工程写真の撮影は黒板・図面・チェックシート等を現場に持ち込み実施していましたが、タブレット端末上にすべての機能を集約させたことで、持ち運ぶものが大幅に削減されました。また、撮影した写真は定型書式に自動整理でき、作業時間削減に大きく寄与しております。

### ビジネスチャットツール

本ツール上で現場内の元請社員・作業員と会話や写真を共有することでコミュニケーションの向上を図ることができます。また一斉配信やグルプトークにより即時に情報伝達が可能。情報共有・伝達ツールで懸念される情報漏洩にも対応しております。

### 施工BIMの活用

3次元データでの可視化により、工事関係者との施工検討・手順の共有が可能となりました。また、コンクリートボリューム等の数量情報をBIMモデルから自動集計することにより、従来手計算で行っていた数量算出作業が大幅に削減されるなど、日常業務における生産性向上にも寄与しております。

### 電力線通信を採用した敷地内 Wi-Fi 化

電力線通信を活用し仮囲い内全域に安定したネットワーク環境を構築することで、施工現場でさまざまな通信デバイスを利用することができます。

#### 建設現場におけるICT活用の様子



【配筋検査システム】



【ドローン】



【デジタルサイネージ】

なお、当社では株式会社NTTドコモとの協業により「建設現場IoTプラットフォーム」を活用することで、従来個別に開発されてきた様々な社内外システムを連携させ、情報の収集、集約、分析、活用を一元的に管理し、従業員や協力会社が、知りたい場所で、知りたい時に必要な情報を引き出せる環境を検証・追究していきます。

#### ※「建設現場IoTプラットフォーム」

株式会社NTTドコモが、建設現場の工期を遵守しながら働き方改革を実現するため、ヒト・モノデータ+AI分析技術を用いて、建設現場状況をリアルタイムで共有するIoTプラットフォームのこと。

今後も東急建設は『2026年のありたい姿』実現に向け、重要課題のひとつとして掲げている「生産性向上」に対し、オープンイノベーションを活用しつつIoT・AI・ロボット・新工法等の先端技術を早期に開発し、建設現場のオペレーションを革新してまいります。



東急建設は、『ICTの積極活用』による新たな価値の提供と業務プロセスの革新に取り組んでいます

【本件に関する問合せ先】

経営戦略本部 経営企画部 コーポレート・コミュニケーショングループ 西田  
TEL 03-5466-5008 FAX 03-5466-5069 E-mail:webmaster@tokyu-cnst.co.jp

以 上